

幼兒に適せりと考ふる事柄は漸々實行し、特に手
 技其室内の仕事に勤勉熱心ならしめん事を期し
 たる結果、前年小學校に送りたる兒よりは稍々一
 齊教授を受くるに便利なる習慣を興へ得たるもの
 如し。

新入兒に對しては前年度の如く初はなるべく何事
 をも随意にせしめ時間割を設けず、家庭にての生
 活の不規律なりしと急變なからしめん事を期した
 る結果、特別の者の外多數の幼兒は苦もなく世話
 なき幼稚園兒となりしせり。新入兒に對する入園
 當初の此方法は其結果に徴して心身發表の自然に
 從へるものなりと信ず。

市川君の批評に答ふ

東 基 吉

學友市川君は、其明晰なる判斷力と、銳利なる批
 評眼とを以て、夙に同人の間に鳴つて居らるので
 ある。此頃拙著幼稚園保育法につきて、詳密な
 る批評を寄せられた。余は、本書に向つて此の如
 き注意を拂つて精讀せられた君の厚志に對して深
 く感謝し、更に本書の不明の箇所を一々指摘教示
 せられた事に依つて、懇切に余の蒙を啓かれた君
 の厚志に向つて、多大の感謝を表さなければなら
 ぬ、
 君の余に向つての讃辭は敢て當らず、其批評せら
 れた諸點は、一々贅言を得て、之に向つては又敢
 て云爲すべき所がないと思ふ。然も、尙一二辯す
 べき節のないでもないと思へるから、茲に一二言
 を記して君の厚意に酬いんと思ふのである。
 一より四に至るまでの君の御論は、敢て異議を申

すべくもない、勿論本書は、序文にある通り、どこまでも斯道の専門家に示さんとして出来たものであるから非専門家たる母に向つては、餘り注意を拂はなかつた、それは、序文に申し述ぶる所のようにである。實際専門家に示す所を以て「一層、適切なる家庭の讀物たらしめん」ことは、今日の場合、随分六ヶ敷い事だと思ふ。故に本書は、敢て適切な家庭の讀物ではないが、兎に角、幼稚園の何たるかを知らんが爲に幼稚園時代の保育の精神の何たるかを解せんがために、敢て世の母たる人の一讀を求めたのである。次に君は、批評の本論に入りて、幼稚園の必要の理由として余の述べたる「家庭に在りては、父母たる者悉く正しき理論に従ひ家庭教育の方法を實行する技倆を有すといふべからず」とあるを引きて「果して保姆は實

母より多く保育に適したるものなりや、少くとも現今の所謂、保姆なるもの、中に、幾人か世の父母よりもより多く保育の法に長けたりとなすべきものありや、これ最も疑はしきことなり」と述べられたれども、余は、總べての保姆が、總べての實母よりも保育に適し、保育の法に長けりとはいはず、父母はどれも彼れも、正しき理論に従つて子供を教育することか出来るとはいへないから、其出来ない者の爲には幼稚園が「入用だ」といったので、従つてか様な父母よりも、適良な保姆が保育の或部分に於ては確に優つて居るとはいへると思ふ。今日の保姆といはれるが、此の如き論題に於ては、一通り完全なるものを目標としてかゝらねばならぬ。(一三二頁保育者の資格参照)家庭教育と學校教育との聯關としての幼稚園に對する議論は

君のは頗る根本的である若し、其方案が確定しさへすれば、無論、此一項は必要とする理由にはならぬと思ふ。

次に、幼稚園保育に伴ふ弊害として、個性を害すること、病毒の傳染、惡風の傳播を擧げたのを批評せられた、勿論、心力過勞等に關する事は保育の要旨の章下に譲るのが便利だと思つたから、そこに載せた。而して、これ等の弊は君のいはれる通り從來の幼稚園に於てのみ見るべきでなく、今日の幼稚園に於ても見るべきであるに違ない、然し、今日に於ては多數の思慮ある保育者が、悉く從來の幼稚園に伴ふ之等の弊害を認めて、之が矯正に盡力するに至つた以上は、從來といつても敢て差支はなからうと思ふ、尙又、かゝる弊害は常に衆人教育に伴ふ必然の結果だとは、小生の信

じ得ない所で、個性の如きは、方法次第で、反つて衆人教育所に於てよく發達せられ様と思ふか如何に、

次に保育事項の中の談話の種類中に、對話の一項を加へては如何との説、至極御尤もと思ふ。但し君の所謂對話と小生の考ふる所とは、果して一致して居るかどうかは分らぬけれども、若し小生の考ふる所に同じであるならば、それは、事實談及寓發事項の談話に於て屢々行はれて居る一方法である、近來外國に於ても、幼稚園の談話は、子供の日常の生活の上につきての實際談、各自の經驗談の如きが重用せられる相だが、これが、君の所謂對話の材料ではないであらうか、遊戯と談話を結合することを得るといふ所につきては尙一層君の説明の勞を煩はしたい心地がせられる。恩物

につきては、近來既に定説あり、小生は、屢他
 の雜誌にも小生の見なり、外國雜誌に散見する新
 説を紹介した。其議論の神秘的なるは、何人も疑
 惑を挾む所、従つて、其方法も此議論から割り出
 された所から、現今でも尙随分、不合理なやり方
 をやつて居るのは情ない話である。君の恩物に對
 つて價値の疑ふべしとする第一點も、若し此議論
 から割り出した方法に由ると、全く有理な疑問で
 ある。夫から一体此恩物は、普氏が、雨中の徒然
 の時子供を室内で遊ばせる折（晴天で都合のよい
 時は大低郊外で遊ばせた）の玩具として與へたも
 のだから、小細工のでもあり、且つ多くは机上の
 手業に屬するのは當然のことで、従つて、保育者
 が、單に恩物丈を尊重して他の保育の方便を顧
 みないといふのは間違つた話で、宜しく祖師に倣

つて、恩物は室内的のものとして、別に室外に於
 て、大に子供の活動性を満足せしめる方便を採用
 せんければならぬと思ふ。
 其他遊園につきて君の述べられたる事ども、一々
 時弊に適中した明言といはねばならぬ。
 文辭に習はぬ所から、君の厚意に對して、或は禮
 を失つた所がないかを恐れる、幸に寛容を祈るの
 である。

雜 報

大阪市保育會

京坂神聯合保育會の一たる大阪市保育會は、會
 長に同市女子師範學校長大村芳樹氏、副會長に
 全校教諭杉山外世四郎氏當られ、全市幼稚園關係